

平成29年2月7日
九州地方整備局
熊本河川国道事務所

俵山トンネルルート（県道熊本高森線）開通による 1ヶ月後の交通状況について

本格的な冬期シーズンを前に昨年12月24日に開通した俵山トンネルルートの開通後1ヶ月の交通状況の速報値をとりまとめたので報告します。

なお、震災後の迂回ルートであったグリーンロードは現在、積雪・凍結の恐れがあるため12月27日より一部区間で全面通行止めとなっています。

《俵山トンネルルートの交通量が約3割増加》

- ・俵山トンネルルートの交通量は震災前の6,500台から8,500台と約3割増加しています。
- ・しかし、東西方向の交通は27,000台となり震災前の39,000万台の約7割の回復にとどまっています。

《主要経路の所要時間が約20分短縮》

- ・熊本駅から高森中央間の路線バスの所要時間が、平均2時間19分から平均2時間1分～18分の短縮。

《バス路線の回復により利用者が回復》

- ・熊本市内と高森町および延岡市間のバス路線が復旧したことから、路線バスの利用者が震災前から約6～7割まで回復しました。

《救急搬送車両の負荷が軽減》

- ・南阿蘇村久石地区から西原村河原地区の急カーブ箇所が39箇所から7箇所に減少し、横ゆれの大きい区間が約30分から約10分に減少し、搬送中の車両にかかる負荷が軽減。

俵山トンネルルートの開通により、所要時間の短縮や冬期における安全・安心な通行が確保されましたが、一部村道を迂回路とするルートであることから急勾配、急カーブ箇所など依然課題が残っています。

国土交通省としても、熊本地震からの復興に向け、南北方向、東西方向の交通機能確保など、引き続き復旧工事を推進して参ります。

■問い合わせ先:

熊本河川国道事務所

技術副所長

徳田 浩一郎

建設専門官

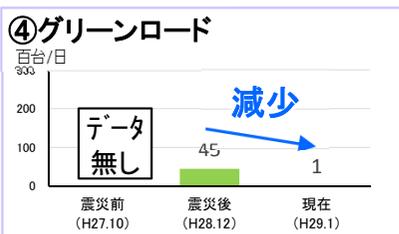
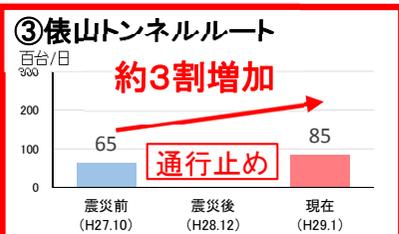
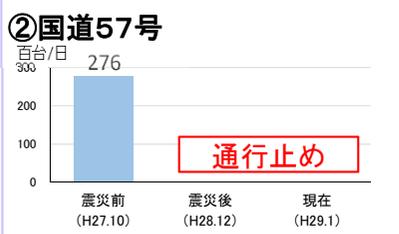
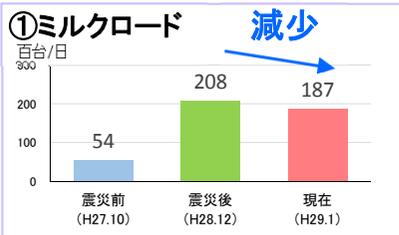
福原 茂

TEL:096-382-1111(代表)

①【交通量の変化】

- 俵山トンネルルート^③の交通量は震災前の65百台から85百台と約3割増加しています。
- しかし、東西方向の交通は2.7万台となり震災前の3.9万台の約7割の回復にとどまっています。

【路線別の交通量】

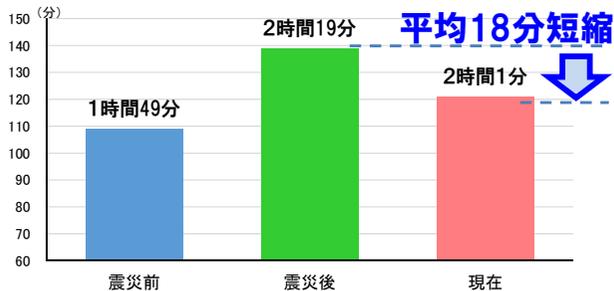


② 【所要時間の短縮】

■ 熊本駅から高森中央間の路線バスの所要時間が2時間19分から2時間1分へ**18分の短縮**。

【路線バスの所要時間】

※たかもり号(熊本駅～高森中央間)



資料: たかもり号の運行ダイヤより

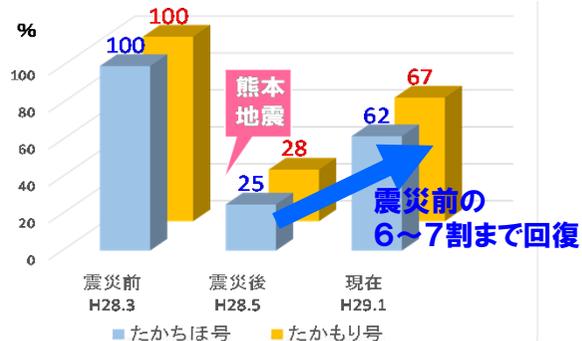


③【路線バス利用者の回復】

■熊本市内と高森町および延岡市間のバス路線が復旧したことから、路線バスの利用者が震災前から約6～7割まで回復しました。

【路線バスの利用者数の変化】

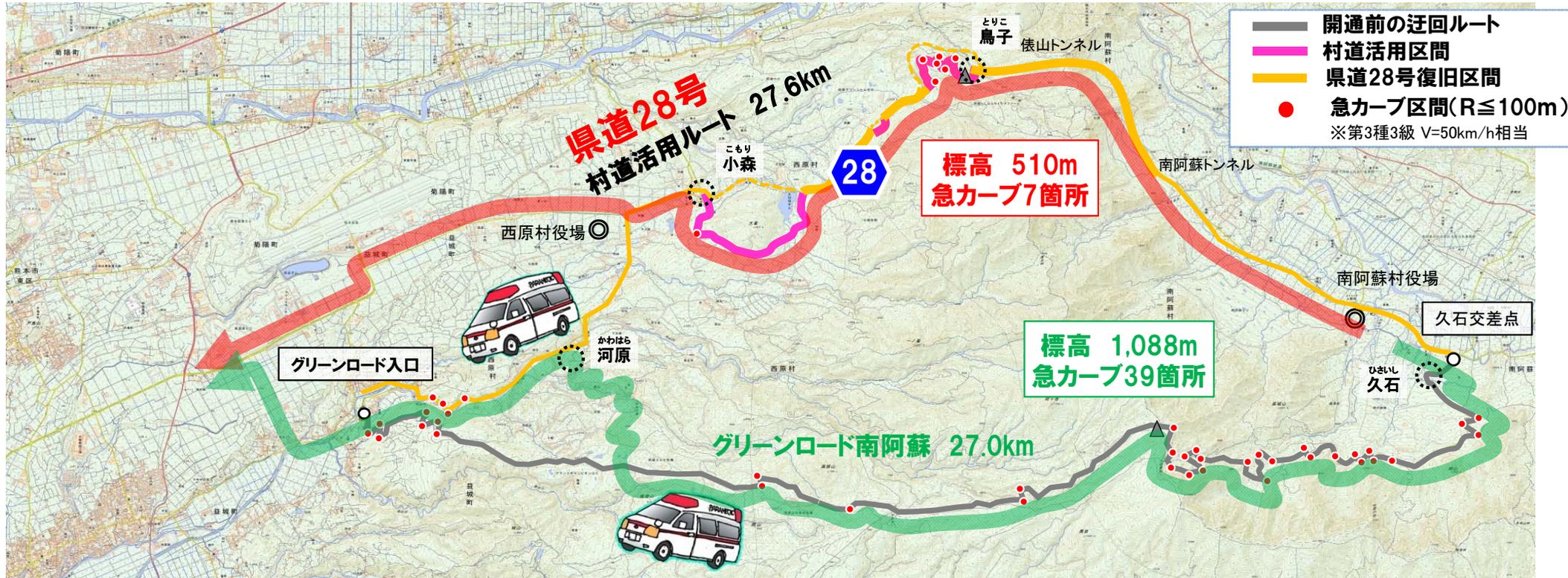
(たかちほ号・たかもり号)



※「たかもり号」は西部車庫・熊本駅前から高森中央へ、
「たかちほ号」は熊本駅前から高森中央を経由して延岡駅前へ運行

④【走行性の向上】

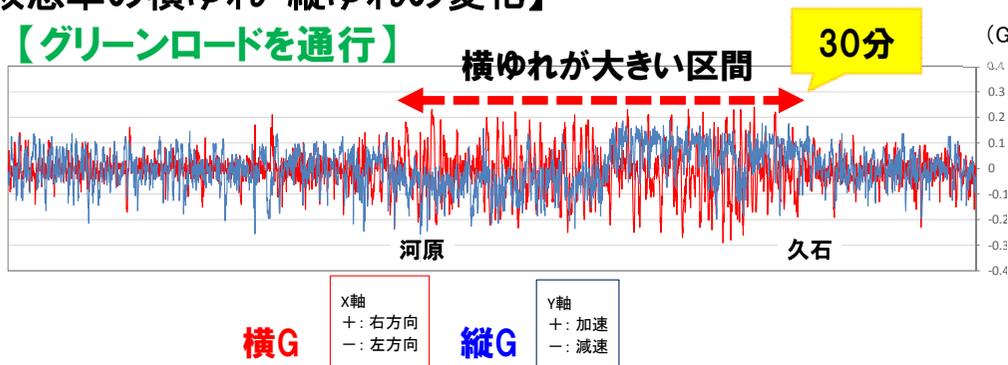
■ 久石地区から河原地区間における搬送経路の急カーブ箇所が39箇所から7箇所へ減少し、横ゆれの大きい区間が約30分から約10分に減少し、搬送中の車両にかかる負荷が軽減。



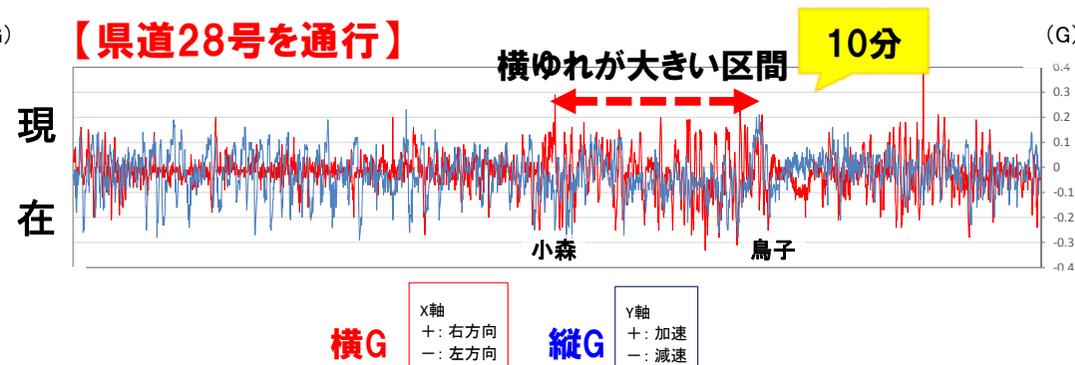
【救急車の横ゆれ・縦ゆれの変化】

【グリーンロードを通行】

震災後



【県道28号を通行】



「曲線走行時に掛かる横Gが0.15G以上となれば、最高血圧の変動量が10mmHgを超過し、搬送患者への影響を与える可能性がある」
 出典：地域の医療を支援する道路構造の分析・評価（第27回日本道路会議）

資料：救急車プローブデータを集計（供用前：H28年12月、供用後：H29.1月）